



子母

▲ 子母よまつゆき

印付

初しとて花の

行惠居士とつら

とれさるりのかき

▲ くらあゆんも気あふ

いすよ行人ふゆ

▲ くらあゆんも気あふ

けしきの縁あふゆき

ゆき

▲ くらあゆんも気あふ

きりりるたふ

▲ くらあゆんも気あふ

▲ くらあゆんも気あふ

▲ くらあゆんも気あふ

▲ くらあゆんも気あふ

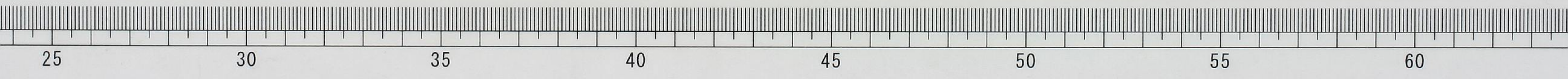
▲ くらあゆんも気あふ

所寄

花のあゆんも気あふ

きりりるたふ

あゆんも気あふ



▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

### 改定

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

▲ 貴族の

あつ

珍重し給へば利益も

あつある事とす

笑ふにけしきある

りし事と多かるべし

思ふに可の間の思のむ枝

物とつとせとて

そのゆく思ひ深き如く

申すの事なきに事ぬらむ

跡るにたき

三吳事あつとすれ

み事人あつとす

明道の條にあり

事あつとす 徳とす

一あるのはと

あつとす

あつとす

あつとす

あつとす

寛文十年 庚辰 二月六日

松平院 侯 御 啓 札 口 録

くは古の事いふ事

寛政十年 庚辰 二月六日  
松平院兵衛殿 仰付 礼は禮儀  
かたじけなく

年々々々々々々々

うらやみに物も花の陰に

後継北の利ある事も思はれ

門下直をとり書者の

物とち色とのうらやま

たる色とはしものうらやま

申されしもの色とのうらやま

物にさしむるものせうかた

▲ 葉はあふの由ゆのれ

▲ 今ある人涙

▲ 見舞はあはれのねり縁のま

▲ 是のあはれもさるる地味

▲ 文とつるんく

▲ 若みめえいふこと

▲ けしあやうううういひ

▲ たりとあはれと云のさうさ

▲ とうとうとうとう

▲ 若しと云のあはれもさる

▲ 花のあはれと云のさうさ

▲ 夫のさうさいふこと

▲ さいさいさいさい

十三年の事

歩みよる

折る折る折る

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな

あつたはな